

税理士パソコン活用実践講座
パソコンによる
デ - タ処理の見方・作り方

第 13 回
グラフ活用 2 軸・円・棒グラフ編

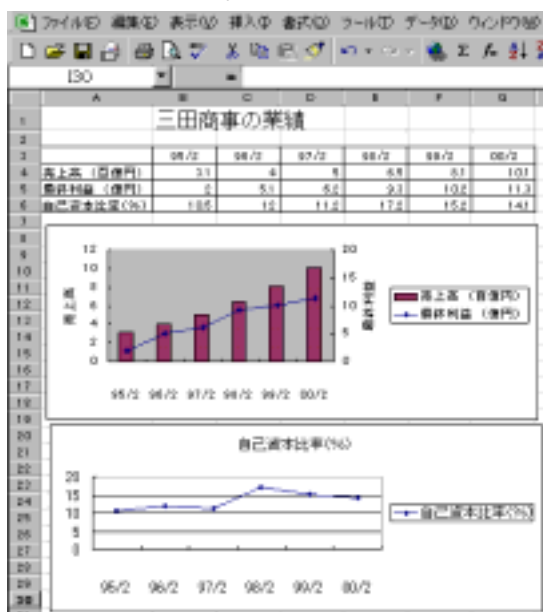
税理士 田中一志

<http://www.asahi-net.or.jp/~ie2h-tnk>

2 軸グラフと円・棒グラフ編

数字に強い税理士が総じて弱いのは表現力の伴うグラフ化でしょうか。グラフは一覧して問題点の発見に役立ちます。なぜ、グラフを使うのか、どのように表現するのかについて検討していきます。

グラフの良さは二つ以上の要因を一面で比較できることです。経済紙で企業の将来性などの業績をチェックするときに 5 年間の売上高、最終利益と自己資本比率の関係性を比較する場合があります。これから、実際にグラフ化して見ましょう。



excel の講習を受けたりすると、範囲の

	A	B	C	D	E	F	G
1	三田商事の業績						
2							
3							
4	売上高 (百万円)	31	4	5	6.5	8.1	10.1
5	最終利益 (百万円)	2	5.1	6.2	8.3	10.2	11.3
6	自己資本比率 (%)	18.5	15	11.2	17.2	15.2	14.1

指定は左上から右下にドラッグすると習います。右へマウスを動かすと指定位置を行き過ぎたり、戻りすぎたりで、一度で指定できません。このような時は右下から始めると左は行き止まりになります。これならいつでも簡単に指定できます。ものは考えようです。



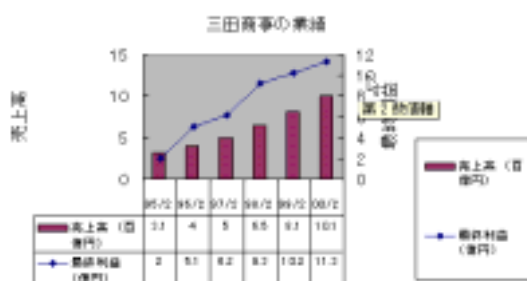
グラフウィザードでユーザ設定を指定。



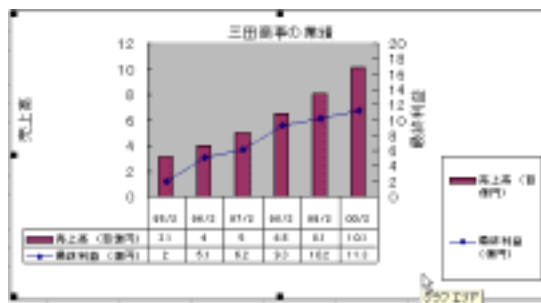
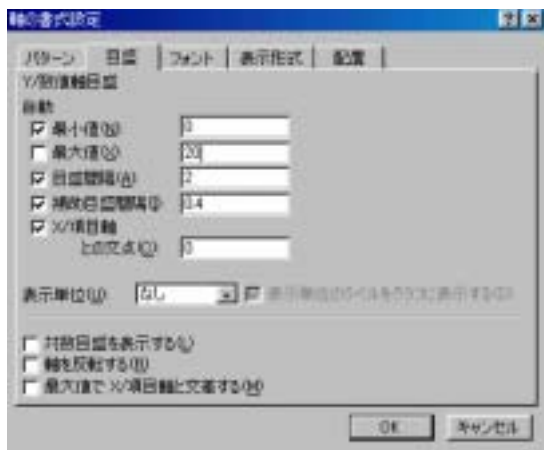
デ - タテ - ブルは「デ - タテ - ブルを表示する」とします。



グラフタイトル、Y/数値軸と Y/第2数値軸に内容を表す名称を入力します。

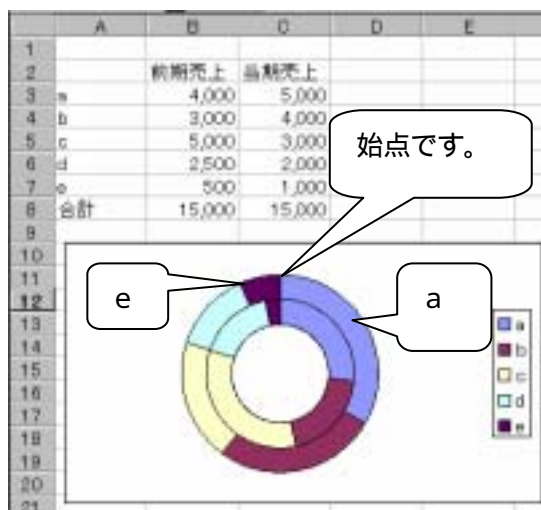


売上高が棒グラフで表示され、最終利益が右側の第2数値軸で折れ線グラフで描かれます。上のグラフは折れ線グラフが棒グラフから上方に外れているので、相関関係ははっきりと表示できません。第2数値軸の目盛りを変更するために第2数値軸上でダブルクリックします。「軸の書式設定」の最大値の返り点をはずして、棒グラフに入るように20ぐらいに数値を変更します。

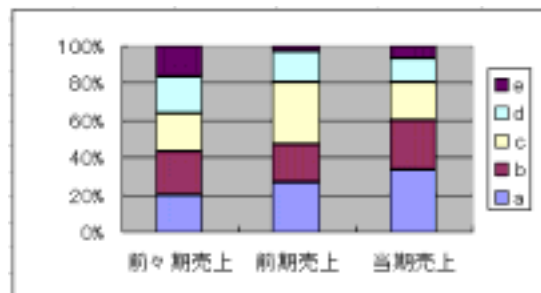


今度はこのように第2数値軸の折れ線グラフが棒グラフに入り込むので、二つの数字の相関関係がよくわかるようになります。

次は円グラフについて考えてみます。下のようにド - ナツ円とか多重円と呼ばれるものは前年対比によく使われます。この場合に始点からの項目以外は一覧して比較できませんので注意しなければなりません。



棒グラフについても同様のことが言えます。この場合の始点とは上部と下部です。ここから始まる2項目以外は一覧して、比較はつきません。



このようにグラフを作成する場合はデ - タの配置を十分に考えて対応しましょう。